

ICSW

ICSW グローバル・コーポレーション (国際社協ニュースレター)

2010年7月

【概要】

- 社会保護フロア・イニシアチブ前進
- 社会保護を通しての包括的成長の促進に関するアジア開発銀行 (ADB) セミナー
- OECD より：1,500 万の雇用求む！
- 世界的な開発危機から抜け出す道筋
- ICSW ヨーロッパ会議～ENSACT と共に
- UNRISD、UNRISD ニュースを創刊
- UNRISD より
- 政策ブリーフ：MDG s と開発アジェンダとの再連携

社会保護フロア・イニシアチブ前進

『グローバル・コーポレーション』6月号で、社会保護フロア・イニシアチブ (SPF-I) のコンセプトについて概説したが、ここでは、ICSW 総会による本イニシアチブの採用について報告する。本イニシアチブは ICSW 世界プログラムを強化するものである。SPF-I は、国際ソーシャルワーク学校連盟 (IASSW)、ICSW および国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW) の将来における「アジェンダ」の一部として採択された。

SPF-I は、以下の Global Extension of Social Security (GESS) のウェブサイト上でプロモーションが行なわれている (英語、仏語、西語)。

<http://www.socialsecurityextension.org>

このサイトでは、多くの資料に混じって、本イニシアチブを概説するパンフレットがある。ICSW は、自身のサイトの一部を SPF-I に提供している。詳しい情報については、以下の通りホームページにリンクが貼ってある。

www.icsw.org

香港での世界会議後、トリノでの会議に参加した。ここでは各国の代表が社会保護フロアに関する経験の分かち合いを行なった。社会保護フロア・イニシアチブに関するペーパーは、アルゼンチン、ボリビア、ブルキナファソ、カンボジア、チリ、中国、コロンビア、エクアドル、ガーナ、インド、メキシコ、モザンビーク、フワンダ、南アフリカ、そしてタイの各国から出された。



ILO の Christian Jacquire は、ワークショップの目的と目標を説明するとき、SPF-I の 4 つの側面を強調した。即ち、手に入れることのできる人権としての社会保護、そして社会的・経済的・政治的必要性としての社会保護である。

SPF-I を支持するのは、国連の 19 の機関と、地域開発銀行や 2 国間パートナー（フィンランド、ドイツ、ブラジル、等々）、国際的な NGO（ICSW、ヘルプエイジ、等々）および民間を含むその他のパートナーとの世界的な連立である。立ち上げられる活動には、認識育成、SPF を政策論議に持ち込もうという提唱運動、知識マネジメントのストック作り等が含まれる。

国内活動

既に多くの国々において、SPF の大規模かつ上々かつ最大の構成要素は存在している。即ち、基本的な保健、基本的な教育、基本的な年金、家族／子ども手当、雇用保障制度、失業給付金、食物の確保、栄養、等々…。新興経済の多くは、すでに総合的な SPF へと向けて動き出している。即ち、メキシコ（Vivir mejor）、アルゼンチン、ブラジル、チリ（Red Protégé）、Uruguay（El plan de Equidad）、コロンビア、中国、インド、タイ、インドネシア、南アフリカ、等々である。

後発開発途上国についても、多くの国々が自分流の SPF を始めることを決めた。即ち、ルワンダ、ブルキナファソ、トーゴおよびその他の西アフリカ諸国、ホンジュラス、エルサルバドル、カンボジア、ボリビア、パラグアイ、エクアドル、等々である。

SPF について我々が承知していることは以下の通りである。

- SPF は、首尾一貫した、明白で、保証された、現実的かつ明晰な、相対的基本パッケージでなければならない。
- よくできた SPF は、たとえ最貧国であっても入手可能なものである（概ね GDP の 3～5% かかる）。
- SPF は、貧困削減および不平等削減、経済成長、社会的な成果および保健上の成果、そして MDG s の達成について、前向きかつ迅速なインパクトを有する。
- 強力な政治的公約、持続可能な財政スペース、政治的コンセンサスを必要とす

る。

- 最貧国には、ドナーからの財政支援、技術支援が必要であるが、それは適切で予想可能かつ持続可能なものでなければならない。
- SPF は、費用対効果の高い投資である。
- SPF は、各国特有のものであるべきである。
- SPF は、長期的なプロセスであり、ゆっくりと立ち上げて、次第に高まっていくものである。
- SPF に必要な要素は次の通り。
 - 社会予算への投資
 - 社会的対話
 - ジェンダーに留意した注意深いデザイン
 - 能力開発
 - 社会保護教育
 - 人々の権利拡大
 - 市民社会の参加
 - モニタリングと評価
- SPF の構成要素間のつながりと、それらと社会保障とのつながりが必要である。
- 知識マネジメント、知識の分かち合い、および『南-南』交流は不可欠である。

ワークショップで発表された各国の経験は全て、英語、仏語、西語で出版される予定である。出版の暁には連絡を回す予定である。ワークショップは、ILO および国連『南-南』協力特別ユニット、GTZ（ドイツ）、ILO 国際訓練センター（トリノ）の支援を受けた。

（報告：ICSW 常務理事、デニス・コレル）

社会保護を通しての包括的成長の促進に関するアジア開発銀行（ADB）セミナー

アジア開発銀行（ADB）は、「社会保護を通しての包括的成長の促進」についてのセミナーを行なった。国連社会開発研究所（UNRISD）のディレクターであるサラ・クック氏は、本セミナーにおいて、適切に作られた社会保護は、貧困から抜け出す道を提供し、より公平な成長を促進し得る、と述べた。多くの社会保護干渉策は、脆弱性の陰に潜む原因を訴えることよりも、特定のショックに対する保護に焦点が当てられていた。社会保護は、開発の成果を達成するよう作ることが可能である。例えば、基本公共財およびサービスの普遍的な提供とともに、世帯の生産資産を維持・強化するよう作られたプログラムは、世帯をよりよく保護することができる。肝心なことは、いかにして保護と生産あるいは強化された生活力との間の難しいつながりを確実なものにするか、ということである。

クック氏は、1998 年のアジア金融危機から学んだ 3 つの主要な教訓について述べ

た。即ち、

- 経済成長には強力な国家主導の政策が含まれることが必要である。
- これらの政策の性格が肝心である。
- 社会保護干渉策が行ける範囲内にある、社会保護と包括的成長との間の重要な関係は、保護を超えて行くことができ、また、生産・分配・再生産の相互に連結した問題を訴えていくことができる。

社会保護は通常、脆弱性への対応として、偶発性に対抗するために導入される。脆弱性は多くの側面を持つ。即ち、

- 基本的ニーズにおける物資の欠乏
- 排他
- 不確実性と不安定
- これらが交差したときに生まれる「畏」

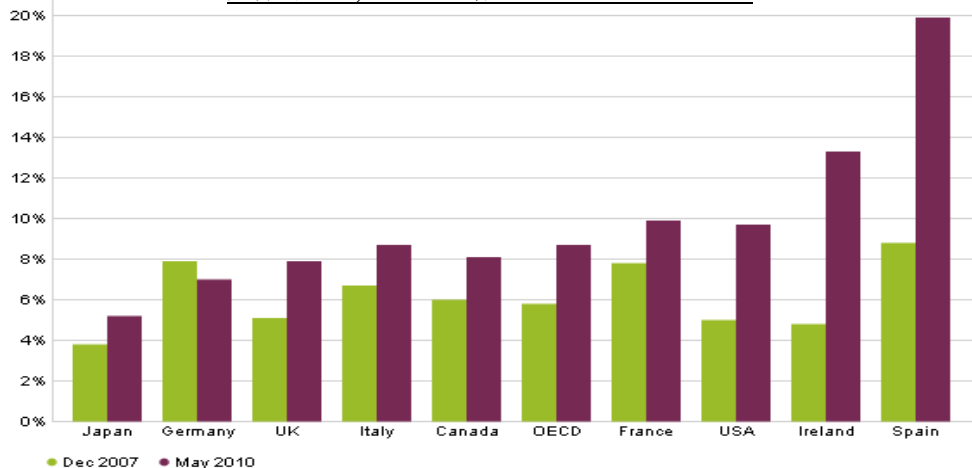
脆弱性の制度的・政治的調整、性質、およびソースが異なるため、誰にでも合うフリーサイズの解決策は存在しない。

こうした複雑さに照らし合わせて、クック氏はより大きな経済的安定性のための基盤を提供し、より幅広い経済開発目標に貢献するような開発方法、および脆弱性を創り出し、長期にわたって存続させてしまう力の不均衡の根幹を訴える変換可能な方法の必要性について話した。例えば、反差別立法、安全な権利と資格、権利を要求する市民の能力の強化などである。彼女はまた、危機の削減・緩和・対応策における国家の拡大された役割の重要性を強調した。

<http://www.adb.org/AnnualMeeting/2010/Seminars/Presentations/S-Cook-presentation-4May.pdf>

OECD より：1,500 万の雇用求む！

失業率～1,500 万の働き口が不足している



多くの先進国で、経済が不況から徐々に復調し始めている一方で、失業の危機はしばらく続きそうである。OECD 諸国は、雇用レベルを金融危機前のものに戻すために、2011 年末までに 1,500 万件の職を新規に創出する必要がある。詳しくは下記を参照のこと。

<https://community.oecd.org/community/factblog/blog/2010/07/07/jobs-gap-wanted-15-million-posts>

世界的な開発危機から抜け出す道筋

2008～2009年の経済・金融危機は、開発途上国にも遅れてやってきた。少なくとも『南』では、危機が大きな社会的・経済的影響をもたらした。その結果、ミレニアム開発目標（MDGs）を含む国際的に合意された開発目標の達成に関する2015年までの見込みは、どんどん遠ざかるばかりである。

「世界的な開発危機から抜け出す道筋～変化のためのアジェンダに向けて」と題されたフリードリヒ・エバート財団（Friedrich-Ebert-Stiftung）の新しい出版物の中で、世界政策フォーラム・ヨーロッパのディレクターであるJens Martens氏は、氏が世界的な開発危機と見なすものに取り組んでいくための、変化に向けた包括的なプログラムについて概説している。

<http://library.fes.de/pdf-files/iez/global/07311.pdf>

ICSWヨーロッパ会議～ENSACTと共に

ICSWの次のヨーロッパ合同地域会議は、2011年4月10～13日、ブリュッセルにおいて、ENSACT（European Network on Social Action：ソーシャル・アクション欧州ネットワーク）と合同で行なわれる。基調講演者の一人は、欧州理事会（European Council）のディレクターであるHerman Rompuy氏である。ペーパー募集はすでに始まっており、締切は2010年10月31日である。

会議テーマや登録などの詳しい情報は下記を参照のこと。

www.ensact.eu

国連社会開発研究所（UNRISD）、UNRISDニュースを創刊



第1号には、UNRISDの新しいディレクターであるサラ・クック氏からのメッセージが掲載されている。その他には、「ヘッドライン」、「イベント案内」、「研究者に会おう（Yousoufou Congo、ブルキナファソからの客員研究員、マイクロファイナンスについて研究）」、「出版物～概要案内（『*Combating poverty and inequality and Why care matters for social development*』）」、「書籍」および「論文」などがある。ウェブ版は以下を参照のこと。

<http://www.unrisd.org/publications/e-bulletin1>

購読希望の場合は以下へ。

<http://www.unrisd.org/myunrisd>

UNRISDより

● 『ポッドキャスト：金融社会政策～社会開発のためのリソースの掘り起こし』

本編では、Katja Hujo氏が、UNRISDの社会政策プロジェクトの一環である自著『金融社会政策～社会開発のためのリソース掘り起こし』について語っている。

<http://www.unrisd.org/80256B3C005BF3C2/setLanguageCookie?OpenAgent&langcode=en&url=/80256B3C005BE6B5/search/59798D5B6A35A5C9C12577510046422A?OpenDocument>

● 『UNRISDフラッグシップ・レポート2010～貧困・不平等との闘い』

UNRISDは、2010年フラッグシップ・レポート『貧困・不平等との闘い』を、2010年9月3日にジュネーブの国連事務所の第12号室にて行なう予定である。本レポートは、UNRISD内部の職員全員および40人以上の協力者による3年間の作業の総決算とも言うべきものであり、独自の「貧困削減および政策体制に関するプロジェクト」の元で行われた研究の統体をなすものである。

<http://www.unrisd.org/80256B3C005BF3C2/setLanguageCookie?OpenAgent&langcode=en&url=/80256B3C005BD6AB/search/90DF168624C41E22C1257736004F70D1?OpenDocument>

政策ブリーフ：MDGsと開発アジェンダとの再連携

国連貿易開発会議（UNCTAD）の市民社会支援活動チームは、「MDGsと開発アジェンダとの再連携～四面的なアプローチ」と題された政策ブリーフを発表した。

<http://www.unctad.org/Templates/StartPage.asp?intItemID=2068>

本ニュースレターの内容の引用・転載は、出展を明らかにする限り自由です。本ニュースレターに掲載された見解は、必ずしも ICSW の方針であるとは限りません。

編集：ICSW 常務理事 デニス・コレル

ICSW 連絡先

ICSW C/- MOVISIE PO Box 19129

3501 DC Utrecht

Netherlands

Email: icsw@icsw.org

Tel: +31 30 789 2226